

執筆者紹介

戒能 通弘（かいのう みちひろ） 序論, 第1章（共著）, 第2章～第6章,
第8章, あとがき

1970年生まれ。同志社大学法学部教授。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス大学院法学修士（LL.M.）課程修了。同志社大学大学院法学研究科博士後期課程修了。博士（法学）。

主な業績：

『世界の立法者, ベンサム——功利主義法思想の再生』（日本評論社, 2007年）, 『近代英米法思想の展開——ホッブズ＝クック論争からリアリズム法学まで』（ミネルヴァ書房, 2013年）, 『ジェレミー・ベンサムの挑戦』（共編著, ナカニシヤ出版, 2015年）, 『法の支配の歴史』（編著, ナカニシヤ出版, 2018年）ほか。

竹村 和也（たけむら かずや） 第1章（共著）, 第7章

1963年生まれ。同志社大学法学部嘱託講師。エディンバラ大学大学院法学修士（LL.M.）課程修了。同志社大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得。

主な業績：

「グローバルな正義論」（『法の理論』第23号, 成文堂, 2004年）, 「人間の安全保障と人権」（『天理大学人権問題紀要』第10号, 2007年）, 『入門法学——現代社会の羅針盤〔第5版〕』（共編著, 晃洋書房, 2018年）ほか。